

令和元年第10回
総務文教常任委員会

所管事務調査報告

期 日：令和元年11月7日(木)
午前9時～午前11時30分

調査内容：学校教育課所管事務調査
(1) 授業参観及び学校備品（電子黒板等）について

出席者：総務文教常任委員5人

説明者：次長兼学校教育課長、指導主事

国見町議会

松 浦 和 子 委員長	・ ・ ・ ・ ・	2
浅 野 富 男 委員	・ ・ ・ ・ ・	3
松 浦 常 雄 委員	・ ・ ・ ・ ・	4
八 島 博 正 委員	・ ・ ・ ・ ・	5
佐 藤 孝 委員	・ ・ ・ ・ ・	6

令和元年第10回総務文教常任委員会所管事務調査報告書

令和元年11月13日

国見町議会議長 東海林一樹様

報告者 松浦和子

【日時】 令和元年11月7日(木)

【場所】 国見小学校

【内容】

- (1) 学校長より令和元年度国見小学校学校経営・運営ビジョンについて説明
教育目標 ○よく考える子ども ○やさしい子ども ○元気で明るい子ども
今までの、知識・技能・思考力・判断力・表現力をプラスして、生きる力をつけ、情報ツールを使いこなすことを身につけさせていく。難しい時代になっている。
新学習指導要領に従って、英語の授業は昨年度からすでに スタートしている。県北地区でも僅か2校である。
- (2) 2校時(9:25~10:10) 6年2組 外国語活動の授業参観
県より、外国語推進費として国見小学校の児童の授業を担当している教師の授業参観。
- (3) 宍戸指導主事より「新学習指導要領」について説明
国は、教育のICT化に向けた環境整備5か年計画(2018~2022年度)を策定。
2018年度以降のICT環境の整備方針で目標とされている水準に、残念ながら国見小学校は教材や設備がまだまだである。
- (4) 3校時(10:30~10:50)授業参観 6年1組 ICTを活用した授業参観
児童がプログラミングを行ない、発表している授業を参観。

【感想】 楽しみながら生きた英語を学んでいる児童の表情が素晴らしく、成果を感じました。45分の授業はあっという間に過ぎ、助手のサポートも教師との連携がとれており、見事な授業でした。ICT化に向けた取り組みを国見小学校は先行して行っているが、環境整備が遅れているのは極めて残念に思います。「国見の宝」である子どもたちが、環境の整った学校で、のびのびと授業ができるよう期待したいと思います。

令和元年第10回総務文教常任委員会 学校教育課所管事務調査報告書

令和元年11月13日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 浅野富男

【調査内容】 所管事務調査 学校教育課

令和元年 11月 7日 午前9時

国見小学校

(1)授業参観 授業開始は9時25分からということで、授業参観の前に校長先生より本年度の学校経営、運営の方針について説明があった。教育目標については知識を習得することとともに思考力、判断力、表現力を養う良く考える子ども、豊かな人間性を育み地域を愛する心を持った心やさしい子ども、進んで体を動かし健康を支える体力づくりに励む元気で明るい子どもの三つを基本としているとのことである。

次は学習指導要領では小学生から英語の授業を取り入れることになったことから6年生が受けている授業を参観した。特別派遣講師の阿部淳子先生が行なっていたが、その内容は日常の生活に必要な英語を実際を使ってみることを主眼とした授業方法であった。紙に筆記することはほんの一部分だけで、通常使用しているイスと机は教室にはなく、座卓の前に座る姿勢での授業であった。後で校長先生が答えてくれたが、阿部先生の希望で、児童たちが動きやすいようにするためということである。

(2)学校備品 10時30分からの3校時の授業参観はICTを活用した授業についてである。児童たちが会議を行うという設定となっていて、各班のテーマに沿って発表するものである。パソコンと大型モニターを使っての授業となっていたが、パソコンの操作を学ぶことが主のようである。またモニターについても、もっと大きいのが基準だそうである。

次の2年生の算数の授業は投影方式の機器での授業となっていたが、これについても操作の点ではほぼ間に合うほどの機能はあるが、電子黒板とは言えないということでした。

新学習指導要領では、教育のICT化に向けた環境整備5か年計画の中で、この電子黒板や3クラスに1クラス分のPC、担任の教師には1台などの情報システムの整備を行うこととなっている。

【感想】

5, 6年生では新たに70時間増えることになる。そのため夏休みを少なくすることになっている。英語の授業は必要なことかもしれないが、習う方も教える方もより多くの時間を必要とする。また小学校では英語とともに情報機器に対する専門性が求められることになる。これらについての「環境整備」も重要な課題となるのではと思う。

総務文教常任委員会所管事務調査報告書

令和元年11月7日

国見町会議長 東海林一樹 様

総務文教常任委員 松浦常雄

【日 時】 令和元年11月7日 9時～11時30分

【場 所】 国見小学校

【内 容】

(1) 国見小学校の経営について

- ① 教育目標（〇よく考える子ども、〇心優しい子ども、元気で明るい子ども）
この下に、知徳体の三つの柱、それぞれの柱に三つの目指す児童の姿を明示
- ② 1年から6年まで普通学級各2学級、計12学級。特別支援学級が3学級。教職員35名。
- ③ 特に力を入れていることは、読書活動と英語教育である。
読書活動は、今年文部科学大臣表彰を受賞した。
英語教育は、10月県内のモデル校として授業が公開され、テレビ局の取材があり、県内に紹介された。
5, 6年生は年間70時間、3, 4年生が、35時間
5, 6年生は、英語の授業、3, 4年生は、英語活動として専任の英語教師と英語に堪能な指導助手が担当し、学級担任は英語の授業は行っていない。

(2) 新学習指導要領についての説明

- ① 新学習指導要領・・・令和2年度から完全実施。国見町は、英語については、今年度から前倒しで実施している。
- ② 新学習指導要領のねらい・・・これからの時代に「生きる力」、(生きていく力)を付けさせる
- ③ 学校における ICT 環境整備（文科省の5カ年計画）についての説明

【感 想】

- ① 英語の授業は、英語専任の教師と指導助手との息の合った授業で、学習の順序が黒板に明示されていて、活動内容がわかりやすかった。文字のカードが1文字ずつ見えるようにし、ヒントを与えて、理解しやすい。児童は楽しく活発に活動していた。教師の指導力のレベルが高い。
- ② 電子黒板が使用されていたが、提示するだけで、活用までは見られなかった。
- ③ 国見小学校の経営、小学校の英語授業の実際、新学習指導要領のねらいや今後の ICT を活用した学習の方向などを知ることができてとても有意義であった。

令和元年第10回総務文教常任委員会所管事務調査報告書

令和元年11月14日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 八島博正

【調査内容】

1. 外国語活動とICTを活用した授業参観

- 菅野校長先生より学校経営及び運営ビジョンについて説明があった
- 外国語（英語）授業（阿部淳子外国語専科先生）参観
- 学習指導要領の改訂についてとICT教育についての説明
- ICTを活用した授業参観（6年1組と2年1組）

【感想】

- 会話の出来る英語教育にする為の英語教育の現場を参観出来て大変勉強になりました。また、阿部先生の英語の発音がすばらしく内容も良かった。
- ICTを活用した授業はその器機を含めてその内容も良く理解することが出来た。

令和元年第10回総務文教常任委員会所管事務調査報告書

令和元年11月7日

国見町議会議長 東海林 一樹 様

国見町議会議員 佐藤 孝

【調査内容】

学校教育課所管事務調査

(1) 授業参観および学校備品（電子黒板等）について

- 外国語活動として6年2組の授業を参観
- ICTを活用した6年1組の授業を参観

【感想】

2020年度改訂の学習指導要領における外国語授業は、5～6年生の外国語活動が従業に位置付けられ、3～4年生は外国語活動と位置づけられる。現在、国見町では、5～6年生の外国語活動35時間との学習指導要領を上回り、2020年度から適用される70時間の授業を1年前倒しで行っている。

この授業も、県内では数少ない専任教師と特別教師の2人体制で実施されており、県内有数の先進校としての評価がなされている。

電子黒板授業においても、現代のIT社会を反映し、文科省方針である情報ツールとするこれら授業を積極的に取り入れている。

- (1) 英語授業のイメージは、文法優先の「読み書き中心」だったが、この授業は実践会話つまりリスニングと対応力・即応力・会話への積極性を引き出し高めるものと理解した。
- (2) 生徒と一体となる授業は、私が知りえる授業風景とは全くことなるもので、生徒が授業に溶け込み笑いが絶えない、「楽しい授業と時間」との印象を強く受けた、加えていうならば、単なる会話だけではなく、外国人によく見られるような会話時のオーバーアクションで相手に意志を伝えようとする姿は、このような授業を通じて自然に会得した会話力のひとつと思う。
- (3) 現在の教師は専任であり、発音をはじめ内容も素晴らしく、高度な授業レベルと評価できる。一方、異動により専任教師が不在なった場合、レベル低下と教師へのさらなる負担増が予想され、教師の努力だけでは解消しきれない問題として、中期的な対策が必要と思う。
- (4) ICT活用授業は、生徒が少人数に分かれた班編成になり、パワーポイントで「国見

町」を発信するプレゼンを行った。主体的で想像力が求められる内容ではあるが、論点も整理され、誰もが理解できる内容に仕上がっている。プレゼンの役割もしっかりしており、好意をもって聞いていられた。努力の成果として立派な内容だと評価している。

- (5) 文科省は、教育の ICT 化加速に向けた環境整備対策として、2018～2022 年度までに約 9000 億を超える国費を投入する計画である。しかし、その財源は地方交付税によるもので、用途を明確にした措置になっていないのは、問題というべきだ。
- (6) 国内では、国見小学校以上に外国語授業に力を入れている学校や IT 授業の先進校も数多いと聞く。

社会のグローバル化が急速に進みつつある現在、次代を先読みする教育の必要性和教師等の指導者配置が欠かせないと痛感するとともに、学校・保護者・地域・教委が共通意識をもつことも極めて重要だと改めて感じている。